高遠エリア TAKATO

K-4 建福寺（けんぷくじ）
伊那IC より25分　伊那市高遠町西高遠

宇屋貞治の石仏群や仏足石のある石仏の寺。戦国時代には武田氏の庇護を受け隆盛を極めた。武田勝頼が出じた朱印状が伝わるほか、勝頼の母である諏訪御料人のものと伝えられる位牌や墓があるほか、戦国大名保科家の菩提寺として知られた直幸三比の墓がある。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2552

L-4 香福寺（こうふくじ）
伊那IC より30分　伊那市高遠町長藤の場

高遠、長谷の創建。745年に行基菩薩が高遠の地を訪れた時、容岩を見て薬師如来の薬壷がひらめいたので一検の堂を建て、薬師如来を祀って本尊とし、法相・三論の道場とした。この話が仏伝ならわる。現在は真言宗、秋の紅葉がとても鮮やか。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2552

K-4 満光寺（まんこうじ）
伊那IC より25分　伊那市高遠町西高遠

鐘楼門の寺。かつて科の木を使い、義光寺になぞらえて建てられたので、信濃の科寺とか、伊那義光寺とも呼ばれた。境内にある樹齢数百年の古松は「極楽の松」と呼ばれ、この松を一目見ると極楽往生できると伝えられている。また、高遠藩主内藤家の菩提寺でもある。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2552

L-4 蓮華寺（れんげじ）
伊那IC より30分　伊那市高遠町長藤の場

絵島の墓

日蓮宗の寺。初めは長遠寺といい高遠北原にあったが、長藤氏により高遠城下には法華が営まれたが、後に月蓮山鷲に移され改称した。寺の焚鐘は鎌田信忠が高遠城を攻める際、飯田市の名刹開善寺から略奪し、陣鐘として引きずってきたもので長野県宝。境内には代表的盛信の位牌がある。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2552

K-4 鉾持神社（ほこじじんじゃ）
伊那IC より25分　伊那市高遠町西高遠

高遠城の守護神として歴代領主の厚い信仰を受けた神社。JR高遠駅から少し北に歩くと、急な階段が天に登りつめるかのように続いている。石段の数は321段。何回か場所が変わっているが、現在の地に移った時に土中から鉾が出たので、鉾持神社と名付けられた。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2552

L-4 守屋貞治の石仏
伊那IC より30分　伊那市高遠町東高遠

桂泉院 准胝観世音菩薩

江戸時代、守屋貞治を始めとする高い技術を持った高遠石工は全国に出向き石を刻んだ。建福寺（K-4）には西国三十三所観音や顔王地蔵尊を始めとする多数の貴治仏がある。このほか常盤橋のたもとにある大聖不動明王（L-5）や、桂泉院境内の准胝観世音菩薩・延命地蔵大菩薩がある。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2552

N-3 弘妙寺（ぐみょうじ）
伊那IC より40分　伊那市高遠町町口

弘妙寺須彌壇

山室川沿いの日蓮宗の寺。800年もの歴史を持つこの寺は「高くぬくしの山ブル寺」として有名。天然カラマツの本堂柱、三浦興峰氏5.23人の肖像画家が描かれた縦いち96枚の天井花鳥画が珍しい。本堂内陣の須彌壇は諏訪の宮大工・白鳥魂四郎の作で見事な彫刻が目を引く。

問／弘妙寺 0265-94-4052

L-5 峰山寺（ほうさんじ）
伊那IC より30分　伊那市高遠町東高遠

高遠藩主高居家の菩提寺。高居忠春が父忠政の追悼のため堂を再興して、峰山寺と改称した。本尊は文覚上人と伝えられる不動尊で霊験あらたかな秘仏。境内の墓地には藩主・高居忠春とその生母の墓や藩学者の阪本天山・中村元恒、政治家・中村弥六らの墓もある。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2552

L-5 桂泉院（けいせんいん）
伊那IC より30分　伊那市高遠町東高遠

鳥屋絶景の寺。元は高遠城内にあって法輪院といい、鎌倉時代による藩城時には法華が営まれたが、後に月蓮山鷲に移され改称した。寺の焚鐘は鎌田信忠が高遠城を攻める際、飯田市の名刹開善寺から略奪し、陣鐘として引きずってきたもので長野県宝。境内には代表的盛信の位牌がある。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2552

L-4 樹林寺（じゅりんじ）
伊那IC より30分　伊那市高遠町東高遠

高遠藩主保科家、鳥居家、内藤家の祈願寺。慶長6年（1601）保科正光が下総赤穂から高遠に転封の際、下総樹林寺の本尊、夕顔観音を取り造らせ、観音堂の土壁入ってて城の鬼門に当たるこの地に建立した。境内には名僧保科正之位牌碑、正之の生母お志津の供養塔がある。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2552

K-5 五郎山
伊那IC より35分　伊那市高遠町勝間

ここには高遠城主仁科五郎盛信の祠がある。1582年織田軍に攻められ高遠城が落城した際、仁科なりも天皇した五郎盛信の祠を、地元の人々が焼け跡から持ち帰ってこの山に埋葬したことから呼ばれるようになった。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2552

L-5 高遠町歴史博物館
伊那IC より30分　伊那市高遠町東高遠

高遠藩主内藤家に伝わった家宝の兜や高遠城をはじめとする郷土の歴史を語る貴重な資料を多数収蔵展示。博物館前の庭には、H21年建立の名刹保科正之公、生母お静像顕彰碑がある。絵島遺み屋敷（当時の見取り図を元に復元）も伊設されている。

※保科正之・徳川二代将軍秀忠の子で三代将軍家光の異母弟。保科家の家督を継ぎ高遠藩主となった後、出羽山形藩主、会津藩主となり四代将軍家綱の後見人として幕政を支えた名君。

※絵島・大奥の大年寄で絵島事件により高遠へ流罪となった、花畑の囲屋敷で61歳の生涯を閉じ、遺体は蓮華寺に葬られた。

※定休日：月曜日（原則）入館料：400円

絵島囲み屋敷

問／高遠町歴史博物館 0265-94-4444

L-4 高遠城跡・高遠城址公園
伊那IC より30分　伊那市高遠町東高遠

日本百名城にも選ばれた国指定史跡で、南北朝時代の高遠氏に始まり、武田氏、毛利氏、京極氏、保科氏、鳥居氏、内藤氏と城主が変遷、城の現形は武田氏に仕え大山を勘助が縄張りをしたと伝えられる。現在は城址公園となっている。

「天下第一の桜」桜の日本三大名所として名高い。長野県天然記念物に指定されているタカネマロビンザクラの樹林は130本余の老樹から若木まで約1500本。桜の花はやや小ぶりだが色が濃く、満開時は桃色の霞の中にいる気分になる。桜の時期はもちろん、夏は緑が美しく秋には紅葉の名所となる。高遠園、無字の碑、新城藤原神社など見どころも多い。春はさくら祭り、秋には紅葉を愛でる秋まつりが行なわれる。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2552

L-4 進徳館
伊那IC より30分　伊那市高遠町東高遠

高遠城内の三ノ丸に設けられた高遠藩の藩校。石段を上がり古い門をくぐった先にある茅葺屋根の屋舎は江戸時代から城跡内に現存する唯一の建物。伊澤修二をはじめわが国の近代教育を担う人材を多く輩出した。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2552

L-4 伊澤修二生家
伊那IC より30分　伊那市高遠町東高遠

我が国の音楽教育の基礎を作り、東京師範学校長、東京音楽学校長、東京高等学校長、東京音楽学校長（現在の東京芸術大学）などを歴任した伊澤修二の生家。高遠に帰って来た際、ここに住宅である。伊那市では、毎年秋に伊澤修二先生記念音楽祭を開催している。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2552

伊那の芸能・祭り

D-1 羽広獅子舞（はびろししまい）
伊那IC より10分
会場：仲仙寺　伊那市西箕輪

羽広地区に約400年の歴史を持つ小正月の伝統行事。現在は、毎年1月15日に近い日曜日に開催され、仲仙寺にて獅頭の獅子が「舞い合わせ」を行いその後、集落を回って家内安全、五穀豊穣などを祈る。雌雄の獅子が一緒に舞うのは全国でも稀有。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

G-3 やきもち踊り
伊那IC より15分
会場：白山神社　伊那市山寺上村

毎年4月15日に一番近い日曜日に行われる山寺区上村の八幡社白山社の祭礼。
氏子がユーモラスな踊りを奉納し、踊りが終わった途端我先に逃げ出す姿が観客の笑いを誘う。逃げ遅れると皮肉にかかるという言い伝えがあり氏子の表情は真剣そのもの。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

H-6 さんよりこより
会場：美篶天伯社　伊那市美篶川手地区　伊那IC より30分
桜井天伯社　伊那市富県桜井　伊那IC より40分

上川手・下川手と桜井、三峰川をはさんだ両地区の七夕祭りで8月7日に行われる。応永34年（1427）高遠藩清片倉の天白様が洪水で才桜井に流れ着き、再び流されて川手地区に落ち着き、これを祭として始まった。七夕飾りの竹を持った子どもたちが太鼓を叩く（地区の間を「さんよりこより」と唱えながら）踊ったところで村役を減多打ちにするが、これが洪水の災厄を叩き清す神事である。その後天の川に見立てた三峰川を天白様が神輿に乗って渡り、桜井でもこのマニュアル神事が行われる。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

G-4 伊那節

古くは「おんたけやま」と呼ばれた馬子唄で、権兵衛神を行き来していた馬子たちによって伊那の各地に広まり、大正15年頃から「伊那節」と呼ばれ長野県を代表する民謡となった。「与地の伊那節」「福地の伊那節」などは元祖に近いものとして伝わっている。伊那公園に「伊那節の碑」がある。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

E-6 御柱
諏訪形・諏訪神社　伊那市西春近諏訪形区　伊那IC より15分
諏訪神社　伊那市富県南福地　伊那IC より30分

伊那市内には、いくつかの諏訪神社があり古来よりの神事御柱が伝わっている。「諏訪形の御柱」「福地の御柱」など。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

K-4 だるま市
伊那IC より30分
伊那市高遠町西高遠

約400年続くといわれる五穀豊穣を祈る祭りで、鉾持神社の祈年祭に合わせて旧暦正月14日（現在は2月11日）に行われている。参道には縁起物の「福だるま」の露店が並び、大勢の人々で賑わう。

問／伊那市商工会 0265-94-2309

K-4 燈籠祭（とうろうまつり）
伊那IC より30分
伊那市高遠町西高遠

高遠町鉾持神社の例祭「燈籠祭」は豊作と無病息災を感謝して行われる。稲穂に見立てた赤いはさが上げ下げで高遠街に飾られ、その中を高遠ばやしが練り歩く様は、静かな秋の夜長に風情をかもしだす。

問／伊那市観光協会高遠支部 0265-94-2309

伊那エリア INA

J-3 清水庵（しみずあん）
伊那IC より30分
伊那市手良

およそ1200年前、聖都清水寺、播磨国（兵庫県）清水寺の開本僧と同一の木を彫刻したと伝えられる観音様が、突如飛来したこの観音様を本尊として祀ったのが清水庵の始まり。天正10年（1582）織田軍の武田攻め（高遠攻めの際、放火出火を隠蔽された。この清水庵はここで焼かれてしまった。が、焼け残りの本尊だけが再び飛来し、隠れるのがためらいこの空海ゆ観音様（は移ない）と祀られ60年に一度の御開帳のために建て替えて、ここは現在もリンタン・ガ形り体（ガ）と十字架が刻まれた地蔵様、井月の句碑がある。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

J-4 蟻塚城（ありつかじょう）
伊那IC より40分
伊那市美篶

美篶笠原集落の東北の小高い丘陵地にある中世の城。平安末期、この笠原の地は朝廷直轄の牧場（御牧）だったため、有力豪族の笠原氏が築城したと考えられている。笠原氏は諏訪神社神官一族の出と言われており、現在残る城跡は堂塔町初期（14世紀）に成立し、戦国期（16世紀）に廃城となったらしい。本丸跡の斜面には高さが5mの土盛が残る。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

J-2 百度申・穴観音（ひゃくどうしん・あなかんのん）
伊那IC より40分
伊那市手良

江戸時代末期1847年から1860年までの13年間に当時の野口村を中心に百余人の寄進によって造立、度申の手書き青面金剛を真前列中央に建ち、猿田彦命、半球形度申供養などが合計百体以上が整然と並んでいる。その中には、小さな鎧り土の塚があり「穴観音」と呼ばれ、4体の石仏が安置されている。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

J-2 四国八十八カ所霊場（しこくはちじゅうはちかしょれいじょう）
伊那IC より40分
伊那市手良

幕末1844～1847年間に野口村などの寄進によって造立された石仏群、八十八の所霊場としているのになぞの石仏は89体ある。地蔵に直接ではなく、ほとんどが、石の鎧に観音様を本尊とする観音様を祀っており、当時は手良地区を中心とした農家の信仰を集めていた。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

I-5 一夜の城（いちやのしろ）
伊那IC より40分
伊那市富県

天正10年（1583）3月、城将仁科五郎盛信は下伊那の地侍などが立てても各高遠城に織田の武田攻めの軍勢が せ切り、織田軍は一夜にしてここに約50メートル四方の土盛を盛り陣城を築いた。現在は北東角の厚みのある土盛の一部が当時の様子を伝えている。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

G-6 殿島城址公園（とのしまじょうしこうえん）
伊那IC より20分
伊那市東春近

春日城主伊那郡司馬守重成の次男新左衛門重国が分家して「殿島大将分重国」を名乗りここに居城した。重国は武田信玄に謀反人として殺された8人の重臣のひとりで、長谷の八人塚に葬られている（M-7）。現在は公園となって郷土を守った重国の碑が建っている。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

H-6 金鳳寺（きんぽうじ）
伊那IC より30分
伊那市富県

文明2年（1470）駿河の国（現静岡県天竜市）妙延寺の天宗元唐大和尚によって開山され、以来500年間なに変るさでに3度の火災に遭ったが再建されてきた。本堂への石段の最上段にある「於三の坐禅石」は決をむくして慈曜に暮れていた上原於三が7日夜その上に座って悟りを開いたといわれる石。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

H-5 伝兵衛井筋（でんべえいすじ）
伊那IC より30分

この井筋の歴史は古く起源は明暦元年（1655）水利に詳しい原新田村の三峰川の水を引き入れて開田によると、住人から幾分水反歩7名目を万治元年（1658）に完成させた。藤兵衛ら藤（現高遠町下山田）の故実で長く信濃された。天保3年（1832）杉島村（現長谷村島）の伊東伝兵衛は、原新田村と協議、高遠藩の許可を得て分水で改修に着手し、その後貞治・桜井・横原・南福地・北福地へ分水し伝兵衛の遺人で、正式名は「春夏大井筋」だがいつのころからか「伝兵衛井筋」と呼ばれている。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

D-1 仲仙寺（ちゅうせんじ）
伊那IC より10分
伊那市西箕輪

弘仁7年（816）今から1100年以上の昔、慈覚大師は夢のお告げで信濃に下り薬木を彫ってー面観音を刻み、観音様を刻んだ木片に写経し、経塚を作り納めた。その山を「経ケ岳」と言い、その麓に観音様をご本尊として開山したのが仲仙寺の始まりと言われている。開山当初は別の場所にあり、寺名も修宝寺といった。慶長18年現在の地に移り浜辺山仲仙寺と改称。「馬の観音様」として信仰を集めた。境下のたから絵まりは「ぴろみち」はここが起源。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

E-5 常輪寺（じょうりんじ）
伊那IC より10分
伊那市西春近小出1区

鎌倉時代、歌舞伎の題材にもなった「曽我兄弟の仇討」兄弟の討ったその敵、工藤祐経の子犬丸がすでに捕えられていると曽我五郎（弟）に無礼をはたらいたと激報朝にが伊那の地に流刑となった。大犬丸は流されたこの伊那の地で水路を引いて開野の開拓や農業の興興に尽力、さ寺を興建し、厚く信仰した。この寺は常輪寺の開基と伝えられている。寺には大犬丸の墓、使用したという鐘、梵、国などがある。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

G-4 史蹟 天竜川舟着場（てんりゅうがわ）
伊那IC より15分
伊那市坂下入舟

幕末衆御道と呼ばれた場所で、武田信玄の侵略に対し最後まで抵抗した伊那の名人の武将が武田軍に捕えられ、この場所で磔の刑、首をさられた。長谷富河内の人は聖堂に起れて名人の首を持ち帰り、長谷区域の東に葬り武福を祈った。八人塚碑（M-7）が建てられている。また江戸中期、民に慕われた北山和尚の墓でもある。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

F-4 伯先桜と見通し桜（はくせんざくら・みとおしざくら）
知先桜：伊那IC より10分　伊那市西町
見通し桜：伊那IC より15分　伊那市狐島

伯先桜は、天明、化政の頃、儒医で知られた中村伯先（1756～1820）が自宅の庭先に植樹した枝垂桜で樹齢200年余、伊那市の天然記念木に指定されている。（左）
また、天竜川対岸の狐島区にある「見通し桜」は、洪水のためだけで大きく川筋を変化させ、大きな被害を出した天竜川の護岸起点として伯先桜との「見通し」を行った桜で、現在の桜は2代目。（右）

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

F-4 春日城跡（かすがじょうあと）
伊那IC より10分
伊那市西町

天文3年（1534）平家の末裔菅田氏居館吉の16代目伊那郡大和守重俊により築城、重要の天の姓は春日であったことから「春日城」と呼ばれた。天文10年、織田信忠の武田討伐軍により廃城。城主は高遠城に入り討ち死したと伝えられる。現在は、桜の名所春日公園として親しまれている。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

G-5 蓮台場（れんだいば）
伊那IC より20分
伊那市狐島

御仕置場とも呼ばれた場所で、武田信玄の侵略に対し最後まで抵抗した伊那の名人の武将が武田軍に捕えられ、この場所で磔の刑、首をさられた。長谷富河内の人は聖堂に起れて名人の首を持ち帰り、長谷区域の東に葬り武福を祈った。八人塚碑（M-7）が建てられている。また江戸中期、民に慕われた北山和尚の墓でもある。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111

F-4 艶三郎の井（やさんろうのい）
伊那IC より10分
伊那市荒井

明治のやころ、天竜川西の高台では木利種を巡る争いが絶えなかった。用水の必要性を痛感した西伊那部村荒井の銘子伝説三郎は、私財を投げ打ち井戸の開削に奔走し、明治28年ついに水脈を発見、一毎の約40ヘクタールが大田なった。その後、三郎は「俺の命は約束通り水神に差し上げる。俺は水神になる」と遺言し明治32年3月31日、井は現在もこんこと湧きだし近くに銘子保水神の頌徳碑が建っている。

問／伊那市観光協会 0265-78-4111